

令和 5 年 6 月 28 日現在

機関番号：32617  
研究種目：若手研究  
研究期間：2018～2022  
課題番号：18K12391  
研究課題名(和文) 消滅の危機に瀕する八丈語の音声談話資料の拡充と継承のための教材開発に関する研究

研究課題名(英文) A Study on the Development of Teaching Materials for the Expansion and Succession of Audio Discourse Materials of the Hachijo Language, which is in Danger of Extinction

研究代表者  
三樹 陽介 (MIKI, Yosuke)  
駒澤大学・文学部・准教授

研究者番号：40614889  
交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、日本における「消滅危機言語」の一つである八丈語のドキュメンテーション作成の一環として、音声談話資料の拡充し学習教材を作成するとともに、三根・末吉の2地域を重点的に調査し、言語体系記述の精緻化を進めた。情報構造や複数接辞に関する新発見などをはじめとする言語学的な成果については国外・国内学会で発表したほか、研究成果は国際ジャーナル・国内論文雑誌等で報告している。また、言語継承に関する成果として2種の学習教材用方言紙芝居を上梓した。これらの取り組みについても国内外の学会で報告しているが、特に欧州で高い評価を受けた。以上、当初計画を上回る成果が得られた。

#### 研究成果の学術的意義や社会的意義

グローバル化の中で失われつつある少数言語の記録・保存・継承は国際的要請度が非常に高く、八丈語を対象とする本研究は日本における危機言語保存のモデルケースとして位置づけられる。また、八丈語は文献以前に本土日本語と分岐した姉妹語として、琉球諸語以外では唯一のものであり、その言語体系の全容解明は日本祖語再建という観点から一般言語学の発展に寄与するものである。本研究で拡充した音声談話資料は言語研究に役立つだけでなく、八丈語再建の基盤として機能するものであり、教材開発とともに継承活動を後押しするという点で社会的意義は大きい。なお、八丈語紙芝居は、副次的ではあるが文学的評価も与えられている。

研究成果の概要(英文)：In this research, as part of the documentation of the Hachijo language, one of the "endangered languages" in Japan, we will expand spoken discourse materials and create learning materials, while focusing on the two regions of Mine and Sueyoshi. The description was refined by investigating and comparing it with the description of the previous research. New findings on information structures and plural affixes add a new page to the grammatical description. In addition to presenting linguistic achievements at international and domestic conferences, I have also reported in international journals and domestic journals. As a result of language inheritance, in addition to publishing two types of dialect picture-story shows for learning materials, these efforts have been announced at academic conferences in Japan and overseas.

研究分野：日本語学

キーワード：八丈語 八丈方言 消滅危機言語 記述文法 音声談話資料 言語継承

## 1. 研究開始当初の背景

2009年2月、八丈語(八丈方言)はユネスコによって日本における「消滅の危機に瀕した言語」の一つとして、アイヌ語や六つの琉球語とともに消滅危機言語リストに登録された。八丈語は従来八丈方言と呼ばれてきたが、ユネスコによって「国際的基準からすると独立した言語として扱うのが妥当」と判断され八丈語として登録された。八丈語は係り結びや用言における終止・連体形の対立、打消「ず」の古形である「にす」など、他の方言では既に失われてしまった奈良時代以前の古代日本語の言語体系を維持しており、文献以前のかかなり古い時代に日本語と分岐したと考えられている(金田 2001)。琉球諸語とは別系統で唯一の本土方言の姉妹言語として学術的価値が高い。しかし、現在伝統的な八丈語の話者は多く見積もっても500人程度であり、平均年齢は70歳を越えている。研究のために残された時間はわずかであり、八丈語を調査・記録・保存し、再建の基盤を準備することは急務である。

言語の保存には辞書・文法書・談話資料の「3点セット」が必要だが、談話資料は語学学習でいう教科書にあたるものである。八丈語には金田章宏氏による優れた文法記述(『八丈方言動詞の基礎研究』笠間書院 2001)や地元話者による方言集がある一方、整備された談話資料や録音資料はほとんどない。これを踏まえ、研究代表者は現在、地元教育委員会や文化庁や国立国語研究所と連携し、調査・記録・保存に取り組み、自然談話音声を第一次資料とした音声談話資料を作成している。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、日本の消滅危機言語の一つである八丈語の記述とその精緻化を推し進め、保存と継承それぞれの目的に特化した音声資料を作成・整備・拡充し、また、一般に公開することで言語の保存・継承のためのインフラ整備を行なうことである。まず、収集した自然談話音声を文字化し、アノテーションを付与し音声談話資料として整備することで言語実態を保存する。音声談話資料は既に三根方言において作成中であるが、対象を他の方言バリエーションにも拡大し、八丈語の全体像を把握する。次に、音声教材や文学作品をもとにした音声テキスト資料を開発し、言語継承活動の環境を準備するとともに実際の活動を行ない、新たな話者の創出を試みる。

グローバル化の中で消滅しつつある少数言語の記述・保存・継承は国際的要請度が高く、本研究は日本における危機言語保存の立場からこれに応えるものであり、地域の多様な文化を維持することで社会的貢献を果たすものである。

## 3. 研究の方法

八丈島には五つの集落があるが、これまで、坂下の三根・大賀郷方言を中心に自然談話音声を収集してきた。本研究ではそれを発展させ、坂上の末吉、櫻立、中之郷方言の音声資料を作成し、島内5方言の差異を反映させた音声データベースを整備し、八丈語全体をバリエーションを含めて網羅することを目指している。坂上の方言にはより古い方言的特徴が残っているにもかかわらず記述が不十分であり、これらの記録は資料的価値が大きい。将来的にはコーパス化への発展を見込んでいるが、消滅危機言語を保存するということが現在最優先に取り組むべき課題であり、まずは音声の収集と整理に傾注した。調査は3~5日程度の日程で年度毎に5~7回程度実施し、音声データの収集のほか、テキストデータの検討・修正のための調査、教材作成のための検討会、テキスト分析のための調査を行なった。

また同時に、地域社会への研究成果還元を念頭に、教材の作成・公開を進めるとともに、その普及にも努める。作成した教材は島内小中学校や一般島民に無償で配布し、島内外での教育・学習・周知に役立てる計画である。音声談話資料はWeb上にホームページを設けて公開し、音声教材についてもダウンロードして活用できるようにする。

## 4. 研究成果

本研究の遂行は、新型コロナウイルス感染症蔓延と感染防止対策に甚大な影響を受けており、2020年春以降の臨地調査が事実上不可能となり、当初計画遂行が困難となった。以下、2018年4月~2019年2月までを前半期、2019年2月~研究期間終了の2022年4月までを後半期とし、2期に分けて記述する。

前半期は概ね計画通りに研究が進んだ。坂下の三根と坂上の末吉の2地域を中心に調査を行ない、自然談話音声データを積極的に収集したほか、文字化し、アノテーション情報を付与することで分析を進めた。また、動詞・形容詞・形容動詞・名詞述語等の活用体系を記述し、金田(2001)の詳細なデータと突き合わせていく中で精緻化を試みるとともに、先行研究の記述の正確さ・詳細さを逐一確認した。また、格や情報構造についても重点的に分析を進め、形容詞と格との関係を、その情報構造を踏まえて論じた。以上の成果は国外・国内学会で発表した

ほか、国際ジャーナル・国内論文雑誌等で報告している。言語継承についても、学習教材として2種の八丈語紙芝居を上梓したほか、活動を国内外の学会で発表しており、当初計画を上回る成果が得られた。

後半期は、先述の理由により基礎データの収集が困難となり、研究遂行が著しく滞った。データ欠落箇所では先行研究の用例等で補完可能な部分については一時的にデータを引用して分析を進めているが、記述の精緻化を進めるにあたっては、そもそも計画にあった分析の視点から収集されたデータが見つからない、あるいはメタデータの部分で確信が得られないことがほとんどであり、計画完了に十分な処置とはなっていない。現状で研究期間を終えることは慙愧の念に堪えないが、前半期のデータや成果、後半期の分析や仮説を次の研究課題に引き継ぐことで、本研究の成果を活かすこととしたい。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 三樹陽介	4. 巻 59
2. 論文標題 八丈語談話資料にみられる対格標示のバリエーションと出現環境 昭和55年度「各地方言収集緊急調査文字化原稿」を資料として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 駒澤國文	6. 最初と最後の頁 202-173
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 三樹陽介	4. 巻 5
2. 論文標題 東京都八丈島三根方言	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 全国方言文法辞典資料集(5) 活用体系(4)	6. 最初と最後の頁 pp.17-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 三樹陽介	4. 巻 10
2. 論文標題 東京都八丈島末吉方言の動詞活用体系試論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 首都圏方言の研究	6. 最初と最後の頁 pp.4-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Yosuke,MIKI	4. 巻 7-1
2. 論文標題 Kamishibai in Dialect - Aiming to inherit the endangered Hachijo-shima dialect -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Amfiteater Journal	6. 最初と最後の頁 pp.1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 三樹陽介
2. 発表標題 八丈語の格・情報構造 - 形容詞構文における与格交替
3. 学会等名 国立国語研究所共同研究プロジェクト 日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成 令和2年度 第1回オンライン研究発表会「格・情報構造（本土諸方言）」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三樹陽介
2. 発表標題 八丈町における方言継承の取り組み
3. 学会等名 実践方言研究会第6回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三樹陽介
2. 発表標題 八丈語(八丈方言)の独自性と価値 - 継承の取り組みについて考える
3. 学会等名 令和2年度 東京都教育庁八丈出張所管内教員研修
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三樹陽介
2. 発表標題 八丈語のあまり知られてない特徴の再発見
3. 学会等名 第10回八丈方言講座 「八丈語の保存継承のための総合研究」最終報告会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三樹陽介
2. 発表標題 八丈語の記述を洗練し、次の時代に伝える
3. 学会等名 21st Biennial Conference of the Japanese Studies Association of Australia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三樹陽介
2. 発表標題 八丈語による文学作品翻訳 消滅危機言語の翻訳資料作成の意義
3. 学会等名 EJHIB2019—社会・人・ことばの動態性と統合(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三樹陽介
2. 発表標題 八丈語の二格形容詞
3. 学会等名 日本語学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yosuke,MIKI
2. 発表標題 Kamishibai in Diarect- Aiming to inherit the Hachijojima dialect endangered by extinction-.
3. 学会等名 International Symposium “The Art of Kamishibai” -The Word of the Image and the Image of the Word-(10 to 13 May 2018, Ljubljana, Slovenia) (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三樹陽介
2. 発表標題 八丈語三根方言の人称・指示代名詞の複数と階層性
3. 学会等名 日本語学会第156回大会（於東京大学本郷キャンパス）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yosuke, MIKI
2. 発表標題 Investigation of a strategy to convey Hachijoan which is an Endangered language to the next generation.
3. 学会等名 Venezia ICJLE 2018 Dialogue for Peace (3 to 4 Aug 2018, Venezia, Italy) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yosuke, MIKI
2. 発表標題 Refinamento da descricao da gramatica dialetal do japonês Pronomes da lingua de Hachijo como exemplo
3. 学会等名 第12回ブラジル日本研究国際学会 (CIEJB) & 第25回全伯日本語日本文学日本文化大学教員学会 (ENPULLCJ) (於ブラジル連邦共和国 カンピーナス州立大学, 2018年8月29日) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三樹陽介
2. 発表標題 八丈語の文法体系記述の精緻化
3. 学会等名 国際都市言語学会第16回年次大会（於 大分市, ホルトホール, 2018年9月11日）(国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 大野真男、杉本妙子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 326
3. 書名 方言の教育と継承	

〔産業財産権〕

〔その他〕

八丈語紙芝居『欠け皿』三樹陽介（編集）、早乙女将史（画） 八丈語紙芝居『タコの婿どの』三樹陽介（編集）、山本史（画）
---

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------